

## 事例番号 37

Keywords: 自閉症, 知的障害, VOCA, 発語困難, コミュニケーション, 障害に基づく困難の改善, 指導目標の達成

### 1. タイトル

発語の困難な児童に、発語の代替としてビックマックに録音した教師の言葉を用いて、友達に問いかけることを促している事例

### 2. 事例の対象となる児童生徒について

知的障害を伴う自閉症・小2

### 3. 使用する機器と特長

ビックマック

### 4. 使用した機器を選定した理由

押す場所が 1 つなのでどの児童も迷わず押すことができ、押すことと音声ダイレクトにつながっている。

### 5. 指導の内容

昨年度の 6 月頃から約 1 年使用している。小 2 児童 6 名のクラス。教室での朝の会の給食のメニューを確認するときを使用。示されたカードと同じカードをはったら、ビックマックで「いいですか?」と問いかけている。問いかけられた児童は、両手で「○」のサインを作り、応答している。発語が困難な児童でも友達とやりとりができるように使い始めた。

### 6. 支援機器の使用効果あるいは、指導の効果と支援機器の評価

発語のない児童も、言葉で相手とやりとりができる。

### 7. まとめと今後の課題

長く取り組んでいるため、パターン化してきてしまっている。バリエーションを増やしたり、そういった場を多く設定したりしていきたい。

※ 本事例（特別支援教育教材ポータルサイト掲載事例）は、独立行政法人国立特別支援教育総合研究所「特別支援学校におけるアシスティブ・テクノロジーの活用ケースブックー49例の活用事例を中心に学ぶ導入、個別の指導計画、そして評価の方法ー」（2012/3）に記載された内容である。